

農 林 委 員 会 委 員 協 議 会 記 録

| | | |
|---------|---------------|---|
| 1 会議の日時 | 令和3年8月31日 | 開 会 午後 1 時 0 0 分 閉 会 午後 1 時 4 6 分 |
| 2 会議の場所 | 議会東棟 企画経済委員会室 | |
| 3 出席者 | 委 員 | 委員長 若 井 敦 子 副委員長 (安 井 忠) 玉 田 和 浩 藤 墳 守 渡 辺 嘉 山 川 上 哲 也 小 原 尚 () は欠席委員 |
| | 執 行 部 | 別紙配席図のとおり |
| 4 事務局職員 | 課長補佐 久 富 英 材 | 主査 水 野 恵 |

5 会議に付した案件

| 件名 | 審査の結果 |
|---------------|-------|
| 1 ウッドショックについて | |

6 議事録（要点筆記）

○若井敦子委員長

それでは、ただいまから農林委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るために開催したものであり、「ウッドショックについて」を議題とし、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶：高井林政部長）

（執行部説明：伊藤県産材流通課長）

○若井敦子委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

○藤墳 守委員

木材価格が急騰しているが、すぐに木材生産を増やすことはできるのか。山に木はあるが、技術者や製材工場は減少している。工務店支援だけでは不十分であり、林業振興につながらない。伐採時期が来ている木材を何とかしなければいけないが、県はどう考えているのか。

○田中森林整備課長

すぐには増産できないが、伐採地の確保を進めることが重要なため、境界の明確化や路網の整備など、基盤整備等を進めていく。

○平井林政部次長

木材生産が少なかった西濃地域には、余力のある事業者があり生産量を伸ばしている。一方で、郡上や飛騨地域などの林地では、既に限度いっぱい生産をしているため、今回のように2割増産といわれても急には対応できない。長期的な対策になるが、林業機械の導入や路網の整備、森林技術者の確保・育成を進める必要がある。

ウッドショックのような急激な需要の増加への対策としては、資料にあるように木材製品の備蓄機能の強化にも力を入れていきたい。

○藤墳 守委員

林業は長いスパンで体制づくりを考えていく必要があるが、森林技術者の高齢化や若者の就業者の減少などの課題もあり、簡単には解決できない。

○平井林政部次長

しっかり見据えて対策を講じていく。

○玉田和浩委員

安い輸入材が入ってきて小さな製材工場は廃業してしまった。住宅様式も変わり、設備などは高くなっているが、柱材など木材は高くなっていない。製材工場が潰れていくのを止めるためには国産材・県産材の需要を拡大していく必要がある。

○小原 尚委員

ヒノキの価格が2倍になっているが、ウッドショックが落ち着いたら再び外材が使われるのではないかと。県として木材の適正価格はどう考えているのか。

○伊藤県産材流通課長

原木価格が最も高かった昭和55年のヒノキの6万7千円に比べれば、現在の3万円は高くない。製品価格も昭和55年は13万円強であったが、当時は天然乾燥が主であり、また物価を考えると今の価格は高くはない。しかし、輸入材が平常に戻れば木材価格は下がっていくと考えられる。木材価格を安

定させるため、山側、加工側、利用者側で量と価格の安定取引協定を締結し、一定の価格で流通させる仕組みを作っていきたい。現在、製品流通事業者が主体となった2つのグループがこの仕組み作りに取り組んでおり、支援している。

○川上哲也委員

ウッドショックの影響を受けた工務店では、従業員の給料にも影響が生じているのか。

○伊藤県産材流通課長

給料の情報は把握していないが、木材価格上昇分を施主に転嫁できている工務店は少ないため、価格上昇の著しい輸入材を多用している工務店は特に苦しんでいると聞いている。それに比べ、以前から県産材を使ってきた工務店は比較的影響は少ないと聞いている。

○川上哲也委員

工務店では価格上昇分を施主に転嫁できていないのか。

○平井林政部次長

木材価格の上昇で、2000万円程度の木造住宅1件当たり最大100万円の差が生じている。価格上昇分を施主に転嫁できていない工務店は、色々工夫しているが利益は減少している。月給制なので、従業員の給料を減らしたという話は聞いていない。今後、決算時期になれば経営状況も明らかになってくると考えている。

○玉田和浩委員

中国が更に木材を輸入するようになるので、将来的に木材価格は上がってしまう。今のうちに国産材・県産材の需要を拡大する必要がある。

○藤墳 守委員

県産材を使ったら20万円を施主に支援する事業があるが、金額が安い。もっと高くして県産材を使ってもらえるように誘導すべき。

○高井林政部長

中国等の木材需要が増えていくことは確実であり、反対に日本は輸出先としての魅力が低下している。こういう時こそ、県産材の需要拡大に取り組んでいく。

なお、これまで、森林整備への対策や、合板工場、大規模製材工場の整備により、木材生産量は基本計画開始時から1.8倍に増えた。今後も様々な施策を進め、林業・木材産業全体を底上げしていく。

○若井敦子委員長

ほかに、質問はないか。

(「なし」の声あり)

○若井敦子委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって「ウッドショックについて」の説明聴取を終了する。

他に意見等はないか。また、執行部はいかがか。

(執行部説明：平野林政課長)

(執行部説明：田口農政課長)

○若井敦子委員長

ただいま、説明のあった8月13日からの大雨被害の状況について、意見等はないか。

○藤墳 守委員

山地災害はどこでも起こり得るので、治山事業をしっかりと推進して欲しい。

○安達治山課長

災害が多発している状況にあり、引き続き重点的に推進していきたい。

○川上哲也委員

高山市朝日町地内で土砂が堆積している現場があり、先日、高山土木事務所と飛騨農林事務所と共にドローンを用いた調査を行った。昨年の豪雨で土砂が流出した箇所だったが、県まで要望が届いていなかったようだ。

たとえ、受益の対象が一軒の要望であっても、しっかりと受け止めていただきたい。

○安達治山課長

ご指摘の事案については承知している。市町村からしっかりと要望を上げていただき、取り組んでいくよう努めたい。

○玉田和浩委員

路側が崩壊している恵北線などは、写真を見ると側溝が無いように見えるが、現状はどうだったか。

○田中森林整備課長

舗装した林道には、側溝としてU字溝を設置している。

○玉田和浩委員

側溝が無いと崩れやすいので、注意して整備して欲しい。

○田中森林整備課長

未舗装の道にはU字溝が入っていない場合もあるが、管理者である市町村において舗装する場合にはU字溝を設置している。

○若井敦子委員長

他に意見等はないか。

(発言する者なし)

○若井敦子委員長

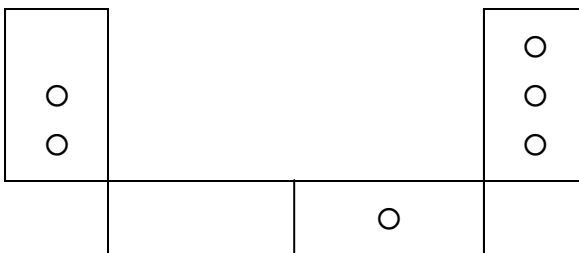
ご意見も尽きたようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

農林委員会配席図

| | | | | | | | | |
|------------|----------------------|-----------------------------|--------------------|------------|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------|
| | 石原 治山課 山地災害対策監 | | 垂見 林政課 技術総括監 | | | 古沢 恵みの森づくり 推進課 ぎふ木育推進監 | | |
| | | 下里 農地整備課 農地防災対策 室長 | | | 吉峯 森林整備課 林業経営改革室 長 | | | 上出 林政課 管理調整監 |
| | 若山 農地整備課長 | | | 安達 治山課長 | | | 藤下 林政課 100年の森づ くり推進室長 | |
| 田口 農政課長 | | | 伊藤 県産材流通課 長 | | | 田中 森林整備課長 | | |
| | | 深谷 農政部 農業技監 | | | 平野 林政課長 | | | 長屋 恵みの森づく り推進課長 |
| | 長尾 農政部長 | | | 高井 林政部長 | | | 平井 林政部次長 | |

入口側

川上 委員
藤埴 委員



小原 委員
渡辺 委員
玉田 委員

若井委員長